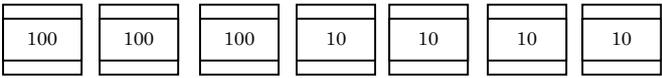
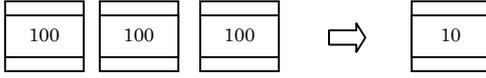
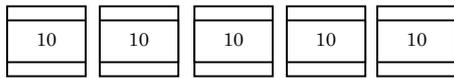
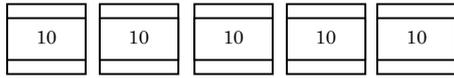
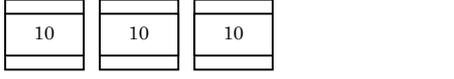
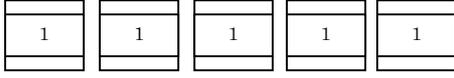


4年	整数のわり算	筆算による 3位数÷2位数
【ねらい】 3位数÷2位数＝2位数の筆算の仕方を理解し、その計算ができる。		

課題	折り紙が345枚あります。この折り紙を21人に同じ数ずつ分けると、1人分は何枚になって何枚余るでしょう。(式) $345 \div 21$	$345 \div 21$ の筆算の仕方を考えましょう 何の位に商がたつのだろう。	

既習事項	① 具体物を操作しながら考えていく。	② 除数をおおよその数にして考え、仮商をたてて計算する。

自力解決	  ① 100の束は分けられないので → 10の束に  →  10の束 → 34束 $34 \div 21 = 1$ あまり 13 13個の10の束は分けられないので → ばらに      $135 \div 21$ 135枚を21人で分けていく。 $135 \div 20 = 6$ あまり 15 $21 \times 6 = 126$ $135 - 126 = 9$ 答え 16枚ずつ分けられて9枚余る。	指導上の留意点 <ul style="list-style-type: none"> ● 100の束3つを21人に分けることができないことをとらえさせる。 ● 実際に折り紙を用意し、操作させながら考えさせていく。 ● $34 \div 21$ のあまり13が10の束であることをとらえさせ、13個の10の束をばらにしていくことに気付かせる。 ● これまで学習したことを基に除数を20と見て考えさせる。また、百の位に商をたてることができないため、十の位から計算を始めることを確認する。
	② 21を20と見て計算する。 $345 \div 20 = 17$ あまり 5 $21 \times 17 = 357$ 仮の商17を直し、16にする。 $21 \times 16 = 336$ $345 - 336 = 9$ 答え 16枚分けられて9枚あまる。	

1 自分の考えを発表する。

① 100の束は3つしかないのでも21人には分けられません。そのため、10の束にして $34 \div 21$ をしました。結果、13束があまり、それをばらにして135枚を21人で分けました。21人を20とみて $135 \div 20$ をすると6が仮の商となります。 $21 \times 6 = 126$ $135 - 126 = 9$ で答えは、16枚ずつ分けられ9枚あまりました。



② 21を20とみて計算しました。345÷20は、百の位には商がたたないのので十の位から考え17あまり5となります。
 $21 \times 17 = 357$ なのでわる数より大きくなるので仮の商を1小さくして16で計算し直します。 $21 \times 16 = 336$
 $345 - 336 = 9$ なので16枚ずつ分けられて9枚あまりです。

2 それぞれの考えの共通点について話し合う。



①は100の束をそのまま分けることができないうので10の束にして十の位から計算をしている。

②では、わる数を20とみて仮の商をたてていますが、十の位から計算しているところは①と同じです。



初めの商を「たてる」位置が分かれば、今までの計算の仕方と同じように計算できるね。

3 345÷21の計算の仕方をまとめる。



わり算の筆算で使ってきた「たてる」「かける」「ひく」「おろす」を使って、新しい筆算の仕方をまとめよう。

$$\begin{array}{r}
 \textcircled{2} \quad 6 \\
 \textcircled{1} \quad 10 \\
 21 \overline{) 345} \\
 \underline{210} \\
 135 \\
 \underline{126} \\
 9
 \end{array}$$

① 10の束を10こ、21人に配ります。21人に10個なので210枚配ります。



② 135枚残ったのでさらに6枚ずつ配ります。21人に6枚ずつなので126枚配ると9枚余ります。



$$\begin{array}{r}
 16 \\
 21 \overline{) 345} \\
 \underline{21} \\
 135 \\
 \underline{126} \\
 9
 \end{array}$$



① 百の位は $3 \div 21$ なので商はたちません。



② 十の位は $34 \div 21$ なので商1をたてます。 $34 \div 21 = 1$ あまり13



③ 一の位の5をおろし、 $135 \div 21$ で一の位に商6をたてます。 $135 \div 21 = 6$ あまり9となります。



商をたてる位置がわかれば、今までの筆算の仕方と同じように計算できるね。

● 10の位に仮の商がたつことに注目させていく。

● ①②ともに百の位に商がたたず、十の位から計算をしていることに気付かせる。

● 具体的な操作活動と筆算を組み合わせながら商のたつ位置が決まると既習の筆算と同じ形で計算することができることをとらえさせる。

● 非形式の筆算を一般的な筆算の形にとらえ直し、商の位置が決まった後は既習の「たてる」「かける」「ひく」「おろす」の4つのことばが繰り返されていることに気付かせる。

○ 適用問題に取り組む。(教科書や単元問題ライブラリー)

○ 本時のまとめをする。

- ・ $345 \div 21$ の筆算では、10の位から商がたちます。後は、これまでのわり算の筆算と同じようにして答えを求められます。

● 商のたつ位置が決まると、これまで通りの筆算の仕方でも計算できることをまとめる。